

## 多職種研修会に参加する薬剤師ほど互いを尊重した自己表現態度が顕著

アサーティブな自己表現（他者を尊重しつつ率直に自己表現をするコミュニケーションスタイル）は、医療安全の質の向上に有用とされています。本研究では、薬剤師に対するアンケート調査により、多職種研修会に多く参加する薬剤師ほど、アサーティブな自己表現を行う傾向が高いことを見いだしました。

薬局の薬剤師は、医療専門職として薬の安全な使用を支える重要な役割を果たしています。特に、医師や他の医療従事者と情報を共有する際に、自分の意見や感情を率直に伝えつつ、相手も尊重するコミュニケーションスタイルである「アサーティブな自己表現」が注目されています。本研究チームはこれまでに、アサーティブな自己表現を行う薬剤師ほど、医師への薬物処方に関する提案が受け入れられる頻度が高いことを明らかにしています。そこで今回、アサーティブな自己表現の高い薬剤師に関連する要因をさらに探りました。

日本の10都道府県で働く薬剤師3,446人を対象にアンケート調査を実施し、年齢、雇用形態、学歴、勤務経験年数、訪問薬剤師の経験、多職種研修会や会議への参加などと、アサーティブな自己表現の程度との関連を分析しました。その結果、961人から回答が得られ、地域の多職種研修会や会議に多く参加している薬剤師ほど、アサーティブな自己表現を行う傾向が高いことが確認されました。この傾向は、他の要因を考慮した後も有意でした。

本研究により、地域の多職種合同研修会や会議に積極的に参加することと、薬剤師のコミュニケーションスタイルに何らかの関連があることが分かりましたが、今後さらに、因果関係の検証が求められます。

### 研究代表者

筑波大学医学医療系

小曽根 早知子 講師

## 研究の背景

薬局に勤務する薬剤師は、医療専門職の一つであり、薬の安全性を確保する役割を担っています。日本では多くの外来患者が医療機関から処方箋を受け、薬剤師から薬剤の交付を受けているため、薬剤師と処方発行した医師の間の情報共有は、安全な薬物治療のために重要です。しかし、実際の業務の中では、医療専門職個人やその職種ごとにコミュニケーションスタイルは異なり、それがストレスや情報伝達の問題を引き起こすことがあります。

「アサーティブな自己表現<sup>注1)</sup>」は、他者を尊重しつつ率直に意見を伝えるコミュニケーションスタイルで、医療安全を目的とした医療専門職間の情報共有に役立つとされています。本研究チームのこれまでの研究により、アサーティブな自己表現を行う薬剤師ほど、医師への薬物処方に関する提案が受け入れられる頻度が高いことが分かっています。しかし、アサーティブな自己表現を行う薬剤師の特徴については明らかではありませんでした。そこで本研究では、薬剤師のアサーティブな自己表現に関連する要因の解明を目的としました。

## 研究内容と成果

本研究では、2022年5月から10月に日本の10都道府県で働く薬剤師3,446人を対象にアンケート調査を実施し、961人から回答を得ました。対象者のアサーティブな自己表現は、多職種連携の際の自己表現態度を測るアサーション評価尺度（Interprofessional assertiveness scale, IAS）<sup>注2)</sup>を用いて測定しました。同時に、薬剤師の年齢、性別、雇用形態、管理者経験、学歴、1週間の処方箋受け付け回数、週あたりの勤務時間、かかりつけ薬剤師業務の有無、在宅訪問薬剤管理指導業務の有無、勤務先の地域で開催される多職種合同研修会や会議への参加経験の有無、勤務先の都道府県、処方箋を受け付けている主な医療機関とその距離（同一敷地内、徒歩5分圏内またはそれ以上）について検討しました。解析の結果、多職種合同研修会や会議への参加経験が、アサーティブな自己表現スコアと有意に関連していることが分かりました（オッズ比1.037、 $p=0.023$ ）（表1）。一方で、年齢や性別、雇用形態、管理者経験などは関連が認められませんでした。

この結果は、薬剤師が医師や他職種と一緒に研修会や会議に参加する機会を多く持つことと、アサーティブな自己表現態度が顕著であることとの関連性を示しています。

## 今後の展開

今回の調査では、地域の多職種合同研修会や会議への参加経験が、薬剤師のアサーティブな自己表現態度と関連することが明らかになりました。しかし、具体的な影響が生じるメカニズムは、十分に検証されていません。今後、研修会や会議への参加頻度を高めることで、薬剤師の自己表現がどのように変化するかを検証する必要があります。安全な薬物処方に対して薬剤師が貢献する要因を解明することで、地域医療の質の向上につながると期待されます。

## 参考図

表1 アサーティブな自己表現スコアと薬局薬剤師の要因との関連

	オッズ比	p値
年齢（歳）	0.999	0.079
性別		
女性	参照	
男性	0.972	0.121
回答しない	0.950	0.221
雇用形態		
パート・アルバイト	参照	
常勤	1.040	0.084
管理者または管理者経験		
なし	参照	
あり	0.990	0.578
在宅訪問薬剤管理指導業務		
なし	参照	
あり	1.013	0.444
地域の多職種合同研修会または会議の参加		
なし	参照	
あり	1.037	0.023

## 用語解説

注1) アサーティブな自己表現

自己表現スタイルの一つであり、相手を尊重しつつ、自身の考え、欲求、気持ちなどを率直に、正直に、その場の状況にあった適切な方法で述べることと定義される。先行研究では、アサーティブな自己表現を行う薬剤師ほど、医師が処方変更に至る連絡をより頻繁に行っていたことが分かっている。

注2) アサーション評価尺度（Interprofessional assertiveness scale, IAS）

本邦の薬剤師を対象に開発された医療チームに参画する場面の自己表現を測定する尺度。アサーティブネスの3つの自己表現スタイルである非主張的な自己表現、攻撃的な自己表現、アサーティブな自己表現に関する質問に対して、どの程度当てはまるかを自己評価し測定する。

## 研究資金

該当する研究資金はありません。

## 掲載論文

【題名】 Factors associated with assertiveness among Japanese community pharmacists: A cross-sectional study.

（薬局薬剤師のアサーティブな自己表現と関連のある要因の検討）

【著者名】 M. Ishii, S. Ozone, S. Masumoto, T. Maeno.

【掲載誌】 *Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences*

【掲載日】 2025年1月23日

【DOI】 10.1186/s40780-025-00410-z

問合わせ先

【研究に関すること】

小曾根 早知子（おぞね さちこ）

筑波大学 医学医療系 講師

URL: <https://www.cvs.cs.tsukuba.ac.jp>

【取材・報道に関すること】

筑波大学広報局

TEL: 029-853-2040

E-mail: [kohositu@un.tsukuba.ac.jp](mailto:kohositu@un.tsukuba.ac.jp)